

「狭き門」

シリーズ～さよならキリスト教～

聖書の有名な言葉⑥

2024/8/11

一般に知られている聖書の有名な言葉

- 「目から鱗が落ちる」
- 「働かざるもの食うべからず」
- 「狭き門より入れ」
- 「求めよさらば与えられん」
- 「豚に真珠」
- 「目には目を歯には歯を」……

一般に知られている聖書の有名な言葉

- 「目から鱗が落ちる」
古い言葉
(文語訳)が多い!
- 「働かぬもの食うべからず」
- 「狭き門より入れ」
- 「求めよ。さらば与えられん」
- 「豚に真珠」
- 「目には目を歯には歯を」

誤解されていることが多い!

本当の意味を調べてみましょう!

「狭き門より入(い)れ」

「狭き門」は、キリスト教で天国に至ることが困難であることを例えたことば。転じて、入学試験や就職試験など、競争相手が多くて突破するのがむずかしいことのたとえ。

(故事ことわざ辞典より)

もともと何と書いてあるか

「**狭き門より入れ**、滅(ほろび)にいたる門は大きく、その路は廣く、之より入る者おほし。生命にいたる門は狭く、その路は細く、之を見出す者すくなし。」(文語訳／大正訳)

「狭い門から入りなさい。滅びに通じる門は広く、その道も広々として、そこから入る者が多い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」(新共同訳)

＜マタイ福音書7:13～14＞

もともと何と書いてあるか

「**狭き門より入れ**、滅(ほろび)にいたる門は大きく、その路は廣く、之より入る者おほし。生命にいたる門は狭く、その路は細く、之を見出す者すくなく也。」(新共同訳)

競争率が高くて
狭くなっているの
ではない！

「狭い門から入る門は広く、その道も広い。しかし、命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだす者は少ない。」(新共同訳)

<マタイ福音書7:13~14>

この言葉を有名した小説

- アンドレ・ジツド作「狭き門」(1909年)

- ノーベル文学賞受賞者

- あらすじ

- アリサは2歳年下の従兄弟ジェロームを愛していた。彼もアリサを愛しており、周囲も二人を祝福していた。しかし、アリサの妹ジュリエットもジェロームに好意を抱いていた。アリサは自分の思いを成就させることは「狭き門」より入ることではないと信じ、ジェロームを愛しながら死んでしまう。ジェロームはアリサの残した日記から彼女の思いを知り、一人で生きていくことを誓う。

この言葉を有名した小説

- アンドレ・ジツド作「狭き門」(1909年)

- ノーベル文学賞受賞者

- あらすじ

- アリサは2歳年下の従兄弟ジェロームを愛していた。彼もアリサを愛しており、周囲も二人を祝福していた。ジェロームもジェロームに好意を寄せ、アリサの思いを成就させたいと信じ、シロームとではないでしよう。ジェロームはアリサの残した日記から彼女の思いを知り、一人で生きていくことを誓う。

自分の願いに反する
路を選ぶことが「狭き
門」から入ること？

命に通じる門は狭い

- それでなくてもキリスト教は「狭き門」なのに…
 - 「それを見いだす者は少ない」ということは、神様はわざと救いを分かりにくくしておられるのか？
 - それでは誰も救われないのではないか！
- **山上の垂訓**を締め括るお話の1つ
 - 「狭い門」(13-14)「実によって木を知る」(15-20)
 - 「御心を行う者」(21-23)「家と土台」(24-29)
 - 「山上の垂訓」は「神の国の新律法」
 - イエス様の弟子として目指すべき理想

神の国に入る前の人への言葉ではない！

イエス様の弟子は狭い門を選べ！

- 「門」とは選択のこと

- 私たちの人生には常に選択が求められる

- 「狭い門」とは

- 選びたくない・好ましくない・困難である・辛そう
な方

- 意識しないと「広い門」(楽で好ましい)方を選んでしまう

- 「狭い門」は見つけにくい

- 「それを見いだす者は少ない」
- 祈りつつ探さなければならない

神の国に入る前の人への言葉

- 「金持ちが神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通るほうがもっとやさしい。」ルカ18:25
 - 金持ちである日本人が神の国に入るのはほぼ不可能に近い！
- 「これを聞いた人々が、『**それでは、だれが救われるのだろうか**』と言うと、」18:26
- 「イエスは、『**人間にはできないことも、神にはできる**』と言われた。」18:27

らくだを針の穴に通される神に期待しよう！